

**グローバルスタートアップキャンパス構想**  
**《事業化支援プログラム》**  
**LAUNCH ASIA 公募要領**

GATS プロジェクト運営事務局（運営支援機関）

## ■ 本事業の目的

政府が掲げる GSC 構想では、国内外の優秀で野心的な研究者及び起業家、スタートアップ、先見的なベンチャーキャピタル（以下 VC とする）、アクセラレーター及びインキュベーター、企業との連携により、我が国全体のイノベーション・エコシステムの変革を促進し、世界最高水準のイノベーション・エコシステムのハブを構築することをミッションとしている。「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想先行的活動に関する実施方針（令和 7 年 6 月 10 日）」及び「同実施細則（令和 7 年 6 月 10 日）」では、世界から優れた人材・投資を集める呼び水となるよう、海外機関との連携による、①研究者・投資家等の集積に向けた国際研究、②事業化支援、③人材育成（フェローシップ）を先行的活動として一体的に実施し、これらの取組を通じて、本構想の実現に向けた取組の具体化・高度化につなげるとともに、ステークホルダーとのパートナーシップを構築することとされている。

本プログラムは②事業化支援において、アジアの名門・National University of Singapore（以下 NUS）が手法を用い、が有するディープテック領域の起業支援メソッドをもとに、日本の研究者・大学発スタートアップ等を対象として、シンガポールを中心とした東南アジア市場における事業化可能性を実践的に検証するための事業化支援プログラムである。詳細は以下のとおり。

## ■ LAUNCH ASIA（実施概要）

本プログラムでは、専門家・メンターの伴走のもと、オンラインでの継続的なメンタリングと、シンガポール現地での集中型 Business Validation Boot Camp を通じて、顧客課題とソリューションの適合性を深く検証し、今後の事業構築および意思決定に必要な判断材料の獲得を目指す。単なる講義受講や市場調査にとどまらず、MVP（Minimum Viable Product）の検証・改善、顧客インタビュー、現地企業とのビジネスミーティング、ネットワーキングを通じて、東南アジアにおける次の具体的な打ち手を明確化することを目的とする。

本プログラムの特徴としては、以下の通り。

- ・ NUS 独自の起業化養成メソッドをもとに、東南アジア市場向けに事業仮説を実践的に検証
- ・ 1 チームにつき専門家・メンター 2 人がつく 2 on 1 体制でメンタリングを毎週実施
- ・ オンライン学習、講義、個別メンタリング、MVP 改善、現地検証が一体化された構成
- ・ シンガポール現地企業とのビジネスミーティングを事前調整のうえ集中的に実施
- ・ BLOCK71 や NUS i3 など、現地スタートアップ・エコシステムへの接続機会
- ・ 検証結果を踏まえ、今後のアクションプランおよびロードマップの策定まで実施

## ■ NUS 概要・実績等

NUS は、研究成果の社会実装と起業支援において豊富な実績を有する。NUS 発のディープテック領域ベンチャー創出プログラム「GRIP（Graduate Research Innovation Programme）」は、2018 年以降、700 名超の起業家育成、121 社のスタートアップ創出、累計 S\$68 million の

外部資金調達実績を有している。また、NUS Enterprise の拠点である NUS i3 や、シンガポール有数のイノベーション集積地である BLOCK71 を通じ、スタートアップ、研究機関、VC、アクセラレーター等との接続機会を提供している。

## ■ 公募概要

### 1. 活動期間と主な活動内容

➤ 活動期間：2026年10月～2027年1月迄の4ヶ月間(1週間シンガポールで現地滞在)

➤ 活動内容と活動時期（暫定内容）

本プログラムは、Kick off から Closing まで全4か月程度で実施され、原則として全日程への参加が求められる。

主な活動内容は、以下のとおりである。

(1) Kick off / Orientation ・ Lecture（東京、2日間）

- ・ NUS の起業支援メソッドに基づく講義・レクチャー
- ・ 参加者の研究・事業アイデア理解を深めるワークショップ

(2) e-learning（プログラム開始後14日間視聴可能）

- ・ Fundamental frameworks of startup に関する基礎学習
- ・ 起業初期に必要な基本フレームワークの体系的理解

(3) 2 on 1 メンタリング（全9回、週1回、各60分、オンライン）

- ・ Deep Dive Consultant（仮説設計・検証伴走）によるレビュー
  - ・ Commercial Champion（ヒアリング設計・アポ獲得支援）による実務支援
- MVP 検証状況の確認、改善示唆、顧客インタビュー設計の高度化

(4) MVP アップデート・顧客インタビュー（約10週間）

- ・ メンタリングで得た示唆を踏まえ、自社 MVP を継続的に更新
- ・ 複数回の顧客インタビューを実施し、仮説の精度を向上
- ・ 顧客課題、提供価値、ターゲット市場、適合性の再検証

(5) MVP Business Validation Boot Camp（シンガポール、1週間）

- ・ 事前に調整した現地企業を短期間で集中的に訪問
- ・ 対面で自社プロダクトのニーズ・適合可能性を検証
- ・ 具体的な課題、示唆、今後の改善論点を抽出
- ・ BLOCK71 訪問およびネットワーキングイベント参加
- ・ 現地キーパーソンとの接点形成

(6) Closing / Presentation（東京、1日間）

- ・ 検証結果および獲得したインサイトの振り返り
- ・ 今後のアクションプラン・ロードマップの報告

➤ 学習内容

講義レクチャーおよび e-learning を通じ、起業初期に必要な 7 つの基礎知識を体系的に学ぶ。主な内容は以下のとおり。

- 1) 起業家マインドセット & スキル
- 2) PMF に至る 3 つの FIT
- 3) 市場・業界理解と初期戦略
- 4) MVP 設計と開発の基礎
- 5) 競合調査・プロダクト計画
- 6) GTM / 成長戦略
- 7) 財務 / 資金調達

➤ 参加者が得られる成果

- ・ 南アジア市場を前提とした事業仮説の具体化
- ・ 顧客インタビューと現地検証に基づく MVP 改善
- ・ 狙うべき市場、顧客、磨くべき価値の明確化
- ・ 現地エコシステムとの接点および事業展開の足がかりの獲得
- ・ 次の一手につながるアクションプランおよびロードマップの策定

※活動期間と主な活動内容は変更になる可能性がありますので、ご注意ください

## 2. 支給・支援内容

A) 1 週間現地集中プログラムの渡航費・滞在費（※1）

※1：上限あり。加えて以下の経費は対象外。また渡航費・滞在費は、予め対象者自らが取得したものについて、領収書及び各種証票（採択時に支給するマニュアルに清算方法を記載予定）及び請求書を受領後、当月締め翌月末払いにて事務局より清算払い。

- 1 エコノミークラス以上のクラスに搭乗するために要する追加費  
（電車、船等の場合も、原則最も低いクラスの移動費のみが対象）
- 2 滞在時の飲食費・懇親・遊興関連費
- 3 上限を超過した渡航費・滞在費
- 4 本プログラム参加に直接的に必要と判断できない費用
- 5 対象者本人以外の渡航費・滞在費や上記 1～4 に該当する費用

## 3. 参加者の要件等

参加者は、上記に記載する類型ごとに、以下に記載する必須要件を満たす必要がある。また合致する任意要件がある場合は審査において加点評価を行う。

#### 《必須要件》

- A) 博士後期課程在籍者、アカデミア所属の研究者（ポスドク、教職員等）、または大学発技術を活用するスタートアップの創業者・CXO  
※応募者自身の IP を活用する、または研究室の IP の活用を許可されている限りにおいては、上記以外の属性も可能。
- B) 技術の事業化・ライセンス展開を検討中で、少なくとも PoC（概念実証）段階に達しており、TRL 4 又は 5 以上を想定。
- C) MVP (Minimum Viable Product) の仕様書やイメージを有していること。モックが既にある場合は、なお望ましい。
- D) 会社設立済みの場合、エクイティ調達（J-KISS、SAFE 等を含む）を未実施であること
- E) 英語で円滑なコミュニケーションが可能なこと
- F) オンラインのセッションおよびシンガポール現地の全日程に対面参加できること
- G) 日本国内の重要技術の国外流出につながる、もしくはその懸念のある活動等に参画及び関与しないことを誓約することができること

#### 4. 選定人数

若干名

#### 5. 公募期間

以下の通りのスケジュールにて公募を実施する。期間中は申請都度、順次以下 6. に示す通りの審査を行い、採択を行う。

公募期間：2026 年 6 月 1 日（月）～2026 年 7 月 31 日（金）終日

#### 6. 選考プロセス

- A) 書類審査（英語の CV および動画提出含むアプリケーションフォーム）  
基本要件の国際経験（言語レベル）、学歴、職歴（年数）等公募申請情報について事務局内で書類審査を実施
- B) 運営チーム及び NUS による審査（面談）
  - ・技術シーズ又は事業アイデアの実現可能性
  - ・PoC・MVP の具体性と検証可能性
  - ・東南アジア市場における事業仮説の妥当性
  - ・参加者のコミットメント及び実行力
  - ・プログラム期間中に顧客インタビュー、MVP 改善、現地検証を進められる体制
  - ・プログラムを通じて事業化判断に必要な学びを得る意思と柔軟性

C) アドバイザー等による最終確認

参加者としての総合的な適性を評価

参考情報：GATS プロジェクト運営事務局（運営支援機関）概要

本事務局は、内閣府が推進するグローバルスタートアップキャンパス構想（詳細は以下 URL 参照）における、②事業化支援・③人材育成事業に運営支援機関として採択されたもので、東京大学協創プラットフォーム開発株式会社と株式会社博報堂の連携により運営されている。

グローバルスタートアップ構想概要：

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/global\\_startup\\_campus\\_initiative/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/global_startup_campus_initiative/index.html)

東京大学協創プラットフォーム開発株式会社概要：<https://www.utokyo-ipc.co.jp/>

株式会社博報堂概要：<https://www.hakuhodo.co.jp/>

本事業概要：<https://gats-web.jp>

お問い合わせ先：[info@gats-web.jp](mailto:info@gats-web.jp)